

第5学年2組 道徳（情報モラル）学習指導案

平成20年11月26日（水） 3校時
仙台市立黒松小学校 教諭 今藤 正彦

1 主題名 「ケータイと思いやり」

道徳内容項目… 2－（2）思いやり， 4－（2）公德心・規則の尊重
情報モラル指導モデルカリキュラム…情報社会の倫理 a 3－1

2 主題設定の理由

（1）価値について

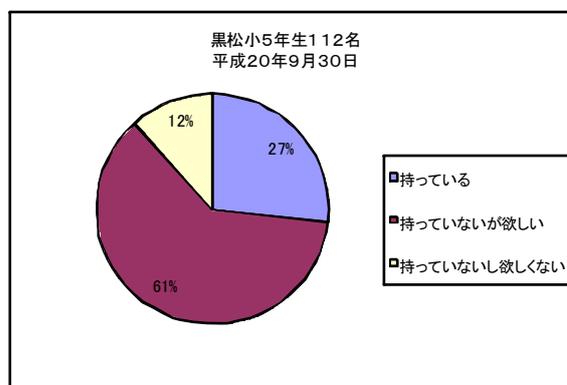
情報社会の進展により，インターネットや携帯電話が急速に普及していく中で，児童・生徒がトラブルに巻き込まれるケースが後を絶たない。特に，インターネットの掲示板や携帯電話のメールによる誹謗中傷やいじめは，深刻さを増している。

道徳内容項目2－（2）に「だれに対しても思いやりの心もち，相手の立場に立って親切にする。」とあるが，ネットワークでのコミュニケーションでも相手を思いやる気持ちの大切さは同じである。また，4－（2）には「公德心をもって法やきまりを守り，自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす。」とあるが，情報ネットワーク社会においては著作権の尊重や個人情報の保護などが遵守されるべき大きな課題となっている。

今後，誰もが安全に恩恵を受けられるネットワーク社会を構築していくためにも，自分を律し適切に行動できる正しい判断力と，相手を思いやる豊かな心情，さらにはネットワークをよりよくしようとする公共心を育てていくことが必要であると考えられる。

（2）児童の実態と携帯電話をめぐる現況

5年児童を対象に実施したアンケートによると，携帯電話の所持率は27％であった。また，「持っていないが欲しい」と答えた児童が61％と多く，「持っていないし欲しくない」と答えた児童は12％と少なかった。今のところ5年生で携帯電話に関連したトラブルは起きていないようだが，児童の関心はとて高く，今後も所持率が増加したりトラブルが発生したりすることが予想される。



一方，ネット上の有害情報から青少年を守ることを目的とした，いわゆる「青少年ネット規制法」（青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律）が，今年6月18日に制定された。また，文部科学省は7月25日付で，全国の学校や教育委員会に対し，携帯電話の取り扱いに関するルールを明確化するよう通知した。具体例の一つとして「小中学校では持ち込みを原則禁止する」という規制案も提示し，児童生徒の利用実態把握に努めることや，情報モラル教育を充実させることなども要請した。さらに，9月12日には，NTTドコモとKDDI，ソフトバンクモバイルの携帯電話大手3社が，18歳未満の未成年者が携帯電話で有害サイトを閲覧できないようにするフィルタリング（閲覧制限）サービスを既存契約者に対しても来年1月下旬から順次，原則として適用すると発表した。

このように，現在は携帯電話をめぐる状況が過渡的段階にあり，だからこそ児童・生徒に対して積極的な情報モラルの指導が求められていると考える。

(3) 資料について

本時では、携帯電話に関する複数の新聞記事を資料として児童に提示する。

- ・「子ども向け携帯好調」(2006年4月7日, 河北新報)
- ・「全児童にGPS携帯」(2007年7月1日, 朝日新聞)
- ・「操作簡単ハイテク携帯」(2007年9月14日, 朝日新聞)
- ・「仙台・ネットいじめ」(2006年12月17日, 河北新報)
- ・「『プロフ』でトラブル多発」(2007年8月20日, 日本経済新聞)

プラス面とマイナス面の新聞記事を比較することにより、携帯電話のメリット(光)とデメリット(影)を浮き彫りにし、誰もが安心して安全に携帯電話を使えるようにするためには利用者の情報モラルが大切であることに気付かせたい。

また、遊び感覚で安易に個人情報を公開することが非常に危険であることに注意を向けさせたいと考える。

(4) 指導の方向

導入段階では、携帯電話でどんなことができるかについて自由に発表させ、様々な機能や利便性(メリット)を確認する。携帯電話を実際に所持・使用している児童が少ない実態を考慮し、携帯電話の写真をスクリーンに映すなどして興味や関心を高める。

展開前段では、まず、防犯機能や音声技術などの性能が向上していることを紹介した新聞記事を提示し、携帯電話が生活に役立っていることに気付かせる。その際、全校児童にGPS携帯を持たせた小学校の新聞記事も紹介し、小学生に身近な問題であることを意識させる。次に、仙台市内の中学校で発生したネットいじめの新聞記事や自己紹介サイト「プロフ」のトラブルに関する新聞記事を提示し、携帯電話によるいじめやトラブルが多発していることを知らせ、負の側面についての問題意識を持たせる。

展開後段では、「モバイル通信白書 2005」から小・中・高校生の携帯電話所持割合グラフを提示する。そして、携帯電話の使用について自分たちの身近な生活上の問題としてとらえ直し、自分の考えをワークシートに書いて発表する。その過程で、携帯電話そのものが悪ではなく、使う人間の情報モラルが問われていることに気付かせていきたい。

終末では、携帯電話使用上の注意点をまとめた資料(「たとえば気になるこんな事」メディアとのつきあい方学習実践研究会 <http://mdtk.mlk5.net/pack/index.html>)とフィルタリングや受信拒否設定の資料(NTTドコモ「ケータイ安全教室テキスト」http://www.nttdocomo.co.jp/corporate/csr/social/educational/safety/manual_download/index.html)を配り、使用場面を想定した具体的な注意を促したい。そして、携帯電話に限らず、相手を思いやる心や、ルールやマナーを守ることが大切であることを感じ取らせたいと考える。

3 本時のねらい

相手のことを思いやり、ルールやマナーを守って携帯電話等の情報機器を上手に活用しようとする心情を育てる。

4 本時の提案

【提案1】携帯電話のプラス面とマイナス面の背反する複数の情報を与えることで児童の問題意識を高め、クリティカルに思考・判断できるようにする。

【提案2】携帯電話使用についての自分の考えをワークシートに書くことで明確にし、ペアや全体の場で考えを交流するなどして情報モラルの向上を図る。

5 本時の展開

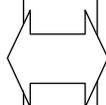
段階	主 な 学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 と 教 師 の 支 援
導 入	1 携帯電話でどんなことができるかについて発表し、様々な機能や利便性を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話の写真をスクリーンに映し、関心を高める。 ・電話、メール、カメラ、音楽プレイヤー、時計、テレビ、インターネット、ゲーム、買い物、地図等の機能を確認する。
【提案1】		
展 開 前 段	2 防犯機能や音声技術など携帯電話の性能が向上し、生活に役立っていることに気付く。 3 携帯電話によるいじめやトラブルが多発していることを知り、負の側面について問題意識を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・具体例として、防犯・安全機能を紹介した新聞記事や、全校児童にGPS携帯を持たせた学校の新聞記事、ハイテク携帯を紹介した新聞記事を提示する。 ・具体例として、仙台市内の中学校で発生したネットいじめの新聞記事や、自己紹介サイト「プロフ」のトラブルに関する新聞記事を提示する。 ・携帯電話の利便性を確認した上で、トラブルを紹介した新聞記事を提示し、板書上でメリットとデメリットを対比させ、光と影の部分があることを意識させる。
【提案2】		
展 開 後 段	4 携帯電話の使用について、自分たちの身近な生活上の問題としてとらえ直し、自分の考えをワークシートに書いて発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「モバイル通信白書 2005」の携帯電話所持割合のグラフを提示し、児童に身近な問題であることを認識させる。 ・「小学生に携帯電話は必要である」という意見に賛成か反対かを赤白帽子で意思表示させることで、問題意識を明確にさせる。 ・ペアや全体の場で考えを発表し合う中で、携帯電話そのものが悪ではなく、使う人間の情報モラルが問われていることに気付かせる。
終 末	5 教師の説話を聞き、これからの生活に役立てようとする意欲を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話使用上の注意点をまとめた資料を配り、簡単に解説する。 ・携帯電話に限らず、相手を思いやる心や、ルールやマナーを守ることが大切であることを感じ取らせる。

6 評価

相手のことを思いやり、ルールやマナーを守って携帯電話等の情報機器を上手に活用しようとする心情が育ったか。

光 <メリット>

影 <デメリット>



ケータイって、
いいものなの？



悪いものなの？

<あなたの考えは？>